



「地球温暖化」が進む今、 なぜ融雪システムが必要なのかご存じですか？ 本当に信頼できる融雪システム を選択していますか？

『どか雪』が増えている

地球温暖化により降雪量が減少すると言われている中、なぜ融雪システムが必要なのでしょう。

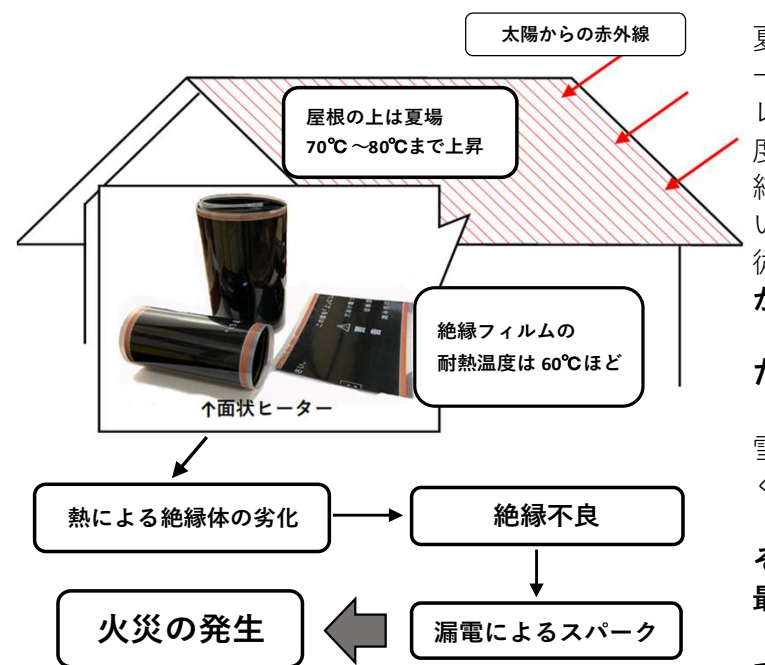
それは、年間の降雪量が減っても一度に降る雪の量が増える『どか雪』が増えるからです。実際に近年の大雪の事例や大雪が増える研究結果が発表されています（右図参照）

そして近年は、この『どか雪』によって雪害や氷害が増えてきています。

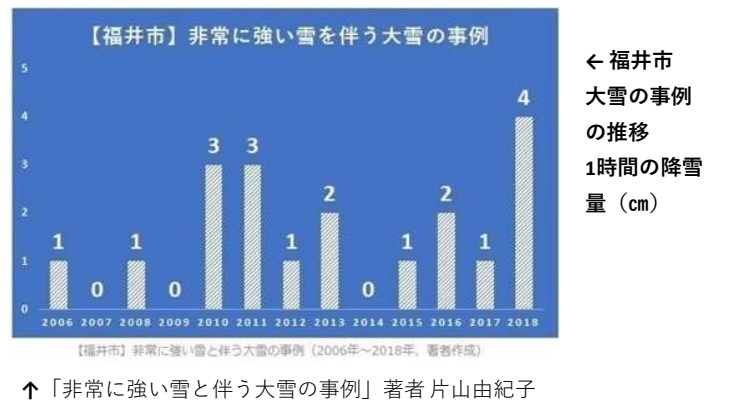
面状ヒーターは融雪に不向き？

屋根融雪では、下図の様に面状ヒーターが使われる場合があります。

しかし、そこにはある危険性が潜んでいることを知っていましたか？



→東北大
研究論文
朝日新聞
2019年
12月17日
朝刊



面状ヒーターの危険性

融雪システムの故障は夏の間に起きている！？

夏場の屋根は70℃～80℃まで温度が上昇します。一方、面状ヒーターの絶縁フィルムに使われるポリエチレンやポリスチレン等の連続使用可能耐熱温度は60℃程度です。結果、夏場の屋根の温度は耐熱性の限界値を超えています。従って時間とともに絶縁不良、つまり漏電を起こす確率が高くなるのです。

だから、屋根融雪に使用するのは危険なのです。

雪国科学ではそのことに早くから気づき、強靱で熱に強く、抜群の絶縁性を持つ素材を求めました。

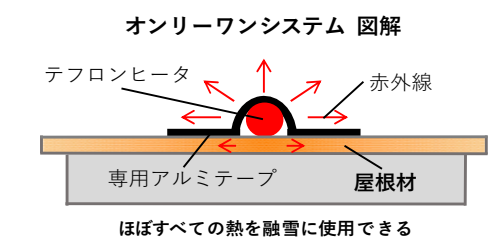
そうして行きついたのが最強の樹脂テフロンと、「テフロンヒーター」でした。



屋根上融雪施工システム「オンリーワン」

”テフロン”を用いて屋根への直接施工が可能に

テフロンは酸、アルカリ、紫外線に強く、耐熱200℃以上、氷点下100℃の高い耐候性を持っています。そのため「オンリーワン」は、強靱なオリジナルテフロンヒーターを専用の熱硬化性アルミテープで屋根に貼るだけというシンプルな構造で”メンテナンスフリーの耐久性”と”優れた熱効率と業界最高水準の省エネ”を実現しました。



公益財団法人 りそな中小企業振興財団・日刊工業新聞社 主催 第35回中小企業優秀新技術・新製品賞にて奨励賞を受賞しました。

「中小企業優秀新技術・新製品賞」とは？

中小企業が開発する優れた新技術や新製品を表彰することにより、日本の中小企業の技術振興を図り、産業の発展貢献する事を目的として昭和63年から毎年公益財団法人 りそな中小企業振興財団と日刊工業新聞社が共同で開催されています。

施工例

	Snow Peak FIELD SUITE SPA 「スノーピークの”自然を感じる”複合型リゾート。屋根の複雑な形状とデザインへの拘り、規制への対応など多くの要望に応える為、雪止め金具の要らない施工方法を開発しました。」
	（株）ブルボン本社ビル 「ブルボン」本社ビルは60～70mにも及ぶ高さが特徴。元は温水式の融雪システムが採用されていましたが、1年目の冬には危険な状態に。高所清掃をメインに行う会社と共同で施工しました。
	JR東日本 越後湯沢駅 東口エレベーター 2022年に湯沢駅へ新設されたエレベーター前ロードと、エレベーター屋根上へ融雪施工しました。屋根上へ直接施工するので折半屋根でも問題なく施工できます。

～雪国の生活を科学し、『ぬくもり』を贈ります～

雪国科学株式会社

〒950-0154 新潟市江南区荻曾根1丁目4-22
TEL. 025-382-0339 FAX. 025-382-0343
e-mail : info@yukigunikagaku.co.jp
営業時間 平日：9:00～18:00 土日祝：9:30～16:00